



学校だより

令和6年度 第4号
令和6年7月2日発行

子どもたちに残したいこと

校長 清宮 正義

「校長先生、今日は7勝3敗だ。」

朝の挨拶時に4年生の男の子が、私に話しかけてくれた言葉です。詳しく話を聞くと、その男の子は、その日の朝から自分から挨拶をしたときは「勝ち」、相手が先に挨拶をされたときは「負け」として、自主的に挨拶運動に取り組んでいたようです。

挨拶運動を通して、改めてわかったことがあります。それは、『その日の気分によって挨拶の仕方が変わる』ことです。時には元気のない子どもに、「どうしたの?」と声をかけると「今朝、家族と喧嘩した」「昨日の嫌なことがあった」等、話をしてくれます。その時は「よく頑張って学校に来たね」と認める言葉かけをしています。些細な言葉かけですが、気持ちを切り替えて楽しい一日が過ごせるよう願いを込め、声かけをします。また、多くの子ども達が元気な挨拶をしてくれます。時には、子供たちからの元気な挨拶で私が元気をもらうこともあります。その時は私も清々しい気持ちになります。

さて、学研の「こそだてまっぴ」では、挨拶の重要性を次のように記載しています。

- ・挨拶は、相手とのコミュニケーションのきっかけになってくれます。
- ・挨拶は、あなたの存在を認めているよというメッセージです。
- ・挨拶は、コミュニケーションが円滑になり、自然に「友達の輪」が広がります。

たしかに、大人になっても挨拶がない人との人間関係は、築きにくいですね。また、子どもが挨拶できるようになるポイントを次のように示しています。

- ・まわりの大人が、「挨拶をしてくれてうれしい」と伝えましょう。
- ・まわりの大人が、「子どもと一緒に挨拶」をしましょう。
- ・まわりの大人が、挨拶が習慣化するまで継続する。
- ・まわりの大人が、挨拶ができなくとも叱らない。

子どもたちが生きる未来は、多様性や多文化が共生していく社会です。そのため、様々な人と積極的にコミュニケーションを図ることがより大切だと考えます。そのきっかけとして挨拶は重要な役割を担っています。挨拶から始まるコミュニケーションを重ねることで、人を思いやる豊かな人間性を培ってほしいと願っています。また、まわりの大人が、子どもたちに伝え、残せるものには限りがあります。形あるものはいつか壊れ、無くなります。だからこそ、子どもたちには、形に見えなくとも心が豊かになることを伝えていきたいと思えます。

夏休みまで、あと10日となりました。子どもたちの成長を見据え、形に見えないことの大切さをぜひ、伝えていただければと思います。